

# 日本語学専攻分野

| 授業科目        | 講義題目             | 単位 | 担当教員氏名                        | 開講<br>学期 | 曜日 | 講時 | 頁  | 平成30年度以前入学者<br>読替先授業科目 |
|-------------|------------------|----|-------------------------------|----------|----|----|----|------------------------|
| 日本語構造論特論Ⅰ   | 文章・談話の構造論        | 2  | 甲田 直美                         | 1学期      | 月  | 3  | 1  | 日本語構造論特論Ⅱ              |
| 日本語構造論特論Ⅱ   | 言語単位論の系譜         | 2  | 齋藤 倫明                         | 1学期      | 月  | 4  | 2  | 日本語構造論特論Ⅰ              |
| 日本語変異論特論Ⅰ   | 日本語文法研究          | 2  | 大木 一夫                         | 1学期      | 木  | 2  | 3  | 日本語変異論特論Ⅱ              |
| 日本語変異論特論Ⅱ   | 方言学的日本語史研究       | 2  | 小林 隆                          | 2学期      | 火  | 2  | 4  | 日本語変異論特論Ⅰ              |
| 日本語学特論Ⅰ     | 語用論から見た日本語       | 2  | 山岡 政紀                         | 集中(1学期)  |    |    | 5  | 日本語変異論特論Ⅲ              |
| 日本語学総合演習Ⅰ   | 日本語史・方言研究の諸問題(1) | 2  | 齋藤 倫明、小林<br>隆、大木 一夫、甲<br>田 直美 | 1学期      | 火  | 4  | 6  | 日本語変異論研究演習<br>Ⅰ        |
| 日本語学総合演習Ⅱ   | 現代日本語研究の諸問題(1)   | 2  | 齋藤 倫明、小林<br>隆、大木 一夫、甲<br>田 直美 | 2学期      | 火  | 4  | 7  | 日本語変異論研究演習<br>Ⅱ        |
| 日本語学総合演習Ⅲ   | 日本語史・方言研究の諸問題(2) | 2  | 齋藤 倫明、小林<br>隆、大木 一夫、甲<br>田 直美 | 1学期      | 火  | 5  | 8  | 日本語変異論研究演習<br>Ⅲ        |
| 日本語学総合演習Ⅳ   | 現代日本語研究の諸問題(2)   | 2  | 齋藤 倫明、小林<br>隆、大木 一夫、甲<br>田 直美 | 2学期      | 火  | 5  | 9  | 日本語変異論研究演習<br>Ⅳ        |
| 日本語構造論研究演習Ⅰ | 近世言語論講読          | 2  | 齋藤 倫明                         | 2学期      | 月  | 4  | 10 | 日本語構造論講読               |
| 日本語構造論研究演習Ⅱ | 文章・談話の構造         | 2  | 甲田 直美                         | 2学期      | 月  | 3  | 11 | 日本語構造論研究演習<br>Ⅱ        |
| 日本語変異論研究演習Ⅰ | 中世語研究(上)         | 2  | 大木 一夫                         | 1学期      | 月  | 2  | 12 | 日本語変異論研究演習<br>Ⅴ        |
| 日本語変異論研究演習Ⅱ | 中世語研究(下)         | 2  | 大木 一夫                         | 2学期      | 木  | 2  | 13 | 日本語変異論講読               |
| 日本語変異論研究演習Ⅲ | 方言調査法            | 2  | 小林 隆                          | 1学期      | 火  | 2  | 14 | 日本語構造論研究演習<br>Ⅰ        |

**科目名：日本語構造論特論Ⅰ／ Structure of Japanese(Advanced Lecture)**

**曜日・講時：**前期 月曜日 3講時

**学期：**1 学期, **単位数：**2

**担当教員：**甲田 直美 (准教授)

**講義コード：**LM11301, **科目ナンバリング：**LJS-LIN601J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語構造論特論Ⅱ 】**

**1. 授業題目：**

文章・談話の構造論

**2. Course Title (授業題目)：**

Discourse and Conversation Structure

**3. 授業の目的と概要：**

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

**4. 学習の到達目標：**

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

**6. 成績評価方法：**

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。  
音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。  
会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。  
論文を読んで論点を提出する。

**9. その他：なし**

**科目名：日本語構造論特論Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Lecture)**

**曜日・講時：**前期 月曜日 4 講時

**学期：**1 学期， **単位数：**2

**担当教員：**齋藤 倫明（教授）

**講義コード：**LM11402， **科目ナンバリング：**LJS-LIN602J， **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語構造論特論Ⅰ 】**

**1. 授業題目：**

言語単位論の系譜

**2. Course Title (授業題目)：**

Genealogy on the Linguistic Units

**3. 授業の目的と概要：**

言語単位をどのようなものとして理解するかは、日本語文法論を考察する上で重要な論点の一つとなる。本講義では、近代以降の日本語文法論において、言語単位がどのように捉えられ位置付けられてきたかを概観することによって、言語単位に関する日本語文法論の特質と系譜を明らかにする。またそのことを踏まえ、現在の日本語文法論における特異な言語単位である教科研文法の「連語」の単位論的な位置づけを試みる。

**4. 学習の到達目標：**

1. 言語単位についての理解を深める。
2. 日本語文法論における言語単位の多様な捉え方を理解する。
3. 教科研文法における「連語」が有する単位性の問題について理解する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

基本的に講義形式で進める。

各回の内容は以下の通り。

- 第 1 回目：講義の目的・内容についての概説。  
第 2 回目：言語単位についての考え方（その一）。  
第 3 回目：言語単位についての考え方（その二）。  
第 4 回目：日本語近代文法論の流れ（その一）。  
第 5 回目：日本語近代文法論の流れ（その二）。  
第 6 回目：大文法論における言語単位（山田文法）。  
第 7 回目：大文法論における言語単位（松下文法）。  
第 8 回目：大文法論における言語単位（橋本文法）。  
第 9 回目：大文法論における言語単位（時枝文法）。  
第 10 回目：大文法論以外の文法論における言語単位（その一）。  
第 11 回目：大文法論以外の文法論における言語単位（その二）。  
第 12 回目：日本語文法論における言語単位の捉え方の特徴。  
第 13 回目：日本語文法論における言語単位の捉え方の系譜。  
第 14 回目：教科研文法における「連語」の単位性について。  
第 15 回目：まとめと課題。

**6. 成績評価方法：**

レポート（60%）、講義への取り組み（30%）、出席（10%）

**7. 教科書および参考書：**

特に使用しない。

参考文献は、講義内容に従って各時間ごとに提示する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回、講義終了後にコメントペーパーを提出してもらい、次の時間に適宜対応するので、自分の提出したコメントペーパーに関し、各自自分なりに調べておくこと。

**9. その他：なし**

毎回、講義内容に関わるプリントを配布する。かなりの量になるので、各自適切に管理すること。

科目名：日本語変異論特論Ⅰ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LM14202， 科目ナンバリング：LJS-LIN603J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論特論Ⅱ】

1. 授業題目：

日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、日本語形態論。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンス
- 第 2 回：文法研究とは何か
- 第 3 回：先行研究の分析について
- 第 4 回：テーマ概説
- 第 5 回：研究史の分析(1)
- 第 6 回：研究史の分析(2)
- 第 7 回：研究史の分析(3)
- 第 8 回：研究史の分析(4)
- 第 9 回：分析実践(1)
- 第 10 回：分析実践(2)
- 第 11 回：分析実践(3)
- 第 12 回：分析実践(4)
- 第 13 回：分析実践(5)
- 第 14 回：分析実践(6)
- 第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

9. その他：なし

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／ Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LM22202， 科目ナンバリング：LJS-LIN604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論特論Ⅰ 】

1. 授業題目：

方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：

study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 授業への導入
2. 2. 目的・方法・資料
3. 3. オノマトペ（1）
4. 3. オノマトペ（2）
5. 4. 感動詞（1）
6. 4. 感動詞（2）
7. 5. 挨拶表現（1）
8. 5. 挨拶表現（2）
9. 6. 言語行動（1）
10. 6. 言語行動（2）
11. 7. 談話展開（1）
12. 7. 談話展開（2）
13. 8. 言語的発想法（1）
14. 8. 言語的発想法（2）
15. 9. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（80%）・出席（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）のほか、授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

9. その他：なし

オフィスアワー：随時

**科目名：日本語学特論Ⅰ／ Japanese Linguistics(Advanced Lecture)**

**曜日・講時：**前期集中 その他 連講

**学期：**集中(1 学期)， **単位数：**2

**担当教員：**山岡 政紀（非常勤講師）

**講義コード：**LM98805， **科目ナンバリング：**LJS-LIN605J， **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論特論Ⅲ 】**

**1. 授業題目：**

語用論から見た日本語

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese from the viewpoint of Pragmatics

**3. 授業の目的と概要：**

- ・言語学の中で最も意味的な領域を扱う語用論(pragmatics)の基礎知識をもとに、日本語における対人コミュニケーションのあり方について学びます。人は対人コミュニケーションにおいて、文字通りの言語形式で表現していることよりもっと豊かな内容を互いにやり取りしています。そこには暗黙のうちに、コミュニケーションのための高度な約束ごとや文脈情報から相手の意図を汲み取る高度な思考法が駆使されているのですが、それを改めて客観的に意識しながら考えていきます。
- ・特に後半は、ポライトネス理論の日本語における応用として「配慮表現」を取り上げます。例えば、「私もパーティーに参加していいですか」という《許可要求》に対する応答は「いいですよ」という典型的な《許可》ではなく、「ぜひ参加してください」と《依頼》のように言うのが相手への好意を伝えるポジティブ・ポライトネスの表現となります。ここで副詞「ぜひ」がその意図を効果的に伝える配慮表現となっています。このような配慮表現は日常にあふれていることを学びます。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 語用論の基礎理論の発想法を習得する。
- (2) 日本語における対人コミュニケーションのあり方について語用論の理論をもとに分析できる思考法を習得する。
- (3) 日本語配慮表現の実態や用法、日本語教育における適切な導入法を習得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション、第1章 語用論の基礎 1 基礎
2. 第1章 語用論の基礎 2 応用、小テスト1
3. 第2章 グライス(Grice)の協調の原理 1 基礎
4. 第2章 グライス(Grice)の協調の原理 2 応用、小テスト2
5. 第3章 関連性理論 1 基礎
6. 第3章 関連性理論 2 応用、小テスト3
7. 第4章 発話行為論(speech act theory) 1 基礎
8. 第4章 発話行為論(speech act theory) 2 応用、小テスト4
9. 第5章 発話機能論 1 基礎
10. 第5章 発話機能論 2 応用、小テスト5
11. 第6章 ポライトネス理論 1 基礎
12. 第6章 ポライトネス理論 2 応用、小テスト6
13. 第7章 日本語の配慮表現 1 基礎
14. 第7章 日本語の配慮表現 2 応用、小テスト7
15. 第7章 日本語の配慮表現 3 発展、まとめと総括

**6. 成績評価方法：**

章ごとに小テストを実施 各 10 点×7 回＝70 点  
授業終了後に自由テーマのレポート 20 点  
出席点・平常点（授業中のアクティブ・ラーニングへの参加態度など）：10 点

**7. 教科書および参考書：**

○教科書

『新版・日本語語用論入門』山岡政紀・牧原功・小野正樹著 明治書院 2018 年刊、定価 1600 円(税別) ※ISBN: 978-4-625-70410-9 C3081

**8. 授業時間外学習：**

集中講義であるため、課題は基本的にすべて授業時間内に行う予定である。

**9. その他：なし**

アクティブ・ラーニングを採り入れ、学生によるディスカッション、発表の機会を多く持ちたいと思います。受講者の積極参加をお待ちします。

**科目名：日本語学総合演習Ⅰ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 4 講時

**学期：**1 学期, **単位数：**2

**担当教員：**齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授）

**講義コード：**LM12401, **科目ナンバリング：**LJS-LIN606J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論研究演習Ⅰ】**

**1. 授業題目：**

日本語史・方言研究の諸問題(1)

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of Japanese language history and Japanese dialect

**3. 授業の目的と概要：**

日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

**8. 授業時間外学習：**

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

**9. その他：なし**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅲも連続履修すること。

**科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)**

**曜日・講時：**後期 火曜日 4 講時

**学期：**2 学期, **単位数：**2

**担当教員：**齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授）

**講義コード：**LM22401, **科目ナンバリング：**LJS-LIN607J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論研究演習Ⅱ 】**

**1. 授業題目：**

現代日本語研究の諸問題(1)

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of contemporary Japanese language

**3. 授業の目的と概要：**

現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

**8. 授業時間外学習：**

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

**9. その他：なし**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅳも連続履修すること。

**科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 5 講時

**学期：**1 学期, **単位数：**2

**担当教員：**齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授）

**講義コード：**LM12501, **科目ナンバリング：**LJS-LIN608J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論研究演習Ⅲ 】**

**1. 授業題目：**

日本語史・方言研究の諸問題(2)

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of Japanese language history and Japanese dialect

**3. 授業の目的と概要：**

日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

**8. 授業時間外学習：**

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

**9. その他：なし**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅰから連続履修すること。

**科目名：日本語学総合演習Ⅳ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)**

**曜日・講時：**後期 火曜日 5 講時

**学期：**2 学期, **単位数：**2

**担当教員：**齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美 (教授)

**講義コード：**LM22501, **科目ナンバリング：**LJS-LIN609J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論研究演習Ⅳ 】**

**1. 授業題目：**

現代日本語研究の諸問題(2)

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of contemporary Japanese language

**3. 授業の目的と概要：**

現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

- (1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%
- (2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

**8. 授業時間外学習：**

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

**9. その他：なし**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅱから連続履修すること。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅰ／ Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LM21402， 科目ナンバリング：LJS-LIN610J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本語構造論講読 】

1. 授業題目：

近世言語論講読

2. Course Title（授業題目）：

Reading of the Modern Japanese Linguistic Works

3. 授業の目的と概要：

近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの東条義門（1786～1843）の『山口栞』（1836 年刊）を読む。本書は、本居宣長の息子春庭の『詞の八衢』『詞の通路』の考えを継承し、日本語の用言についてまとめて論じたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、八衢派の流れを汲む東条義門の所説を理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. テキストに書かれていることを精確に理解する。
2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（講義の進め方、東条義門と「山口栞」についての概説等）。
2. 「山口栞」の講読（その一）。
3. 「山口栞」の講読（その二）。
4. 「山口栞」の講読（その三）。
5. 「山口栞」の講読（その四）。
6. 「山口栞」の講読（その五）。
7. 「山口栞」の講読（その六）。
8. 「山口栞」の講読（その七）。
9. 「山口栞」の講読（その八）。
10. 「山口栞」の講読（その九）。
11. 「山口栞」の講読（その十）。
12. 「山口栞」の講読（その十一）。
13. 「山口栞」の講読（その十二）。
14. 「山口栞」の講読（その十三）。
15. 「山口栞」講読の総括。

6. 成績評価方法：

レポート（60％）、授業への取り組み方（20％）、出席（20％）。

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：なし

特になし。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：甲田 直美（准教授）

講義コード：LM21301， 科目ナンバリング：LJS-LIN611J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本語構造論研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

- I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
- II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
- III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. 学習の到達目標：

- (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
- (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点
2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
3. テキストにおけるジャンル差
4. コーパス研究 1
5. コーパス研究 2
6. 文章における諸現象 1
7. 文章における諸現象 2
8. 会話における諸現象 1
9. 会話における諸現象 1
10. ドラマの構造分析
11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

6. 成績評価方法：

リポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

9. その他：なし

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

**科目名：日本語変異論研究演習Ⅰ／Variation of Japanese(Advanced Seminar)**

**曜日・講時：**前期 月曜日 2講時

**学期：**1学期, **単位数：**2

**担当教員：**大木 一夫(教授)

**講義コード：**LM11202, **科目ナンバリング：**LJS-LIN612J, **使用言語：**日本語

**【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論研究演習Ⅴ】**

**1. 授業題目：**

中世語研究(上)

**2. Course Title (授業題目)：**

Study of middle Japanese language (1)

**3. 授業の目的と概要：**

院政鎌倉期の漢字カタカナ交じり文をテキストとし、それを丁寧に読みながら、中世日本語資料としていかなる性格をもつものであるのか、また、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、当該テキストを資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス
2. 古辞書概説(1)
3. 古辞書概説(2)
4. 発表の方法
5. 研究発表(1)
6. 研究発表(2)
7. 研究発表(3)
8. 研究発表(4)
9. 研究発表(5)
10. 研究発表(6)
11. 研究発表(7)
12. 研究発表(8)
13. 研究発表(9)
14. 研究発表(10)
15. 研究発表(11)・まとめ

**6. 成績評価方法：**

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

**7. 教科書および参考書：**

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019

漢字カタカナ交じり文のテキストはコピーして配付する。

参考文献は講義内で随時示す。

**8. 授業時間外学習：**

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

**9. その他：なし**

後期の「日本語変異論研究演習Ⅱ」(中世語研究(下))も連続して履修すること。

**科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／ Variation of Japanese (Advanced Seminar)**

**曜日・講時：**後期 木曜日 2 講時

**学期：**2 学期, **単位数：**2

**担当教員：**大木 一夫 (教授)

**講義コード：**LM24202, **科目ナンバリング：**LJS-LIN613J, **使用言語：**日本語

**【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語変異論講読 】**

**1. 授業題目：**

中世語研究 (下)

**2. Course Title (授業題目)：**

Study of middle Japanese language (2)

**3. 授業の目的と概要：**

古代日本語が近代日本語へ変容していく過程に、中世日本語がある。この中世日本語について、文献日本語史の視点から、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス・中世語研究 (上) のふりかえり
2. 日本語史調査の技法
3. 日本語史分析の視座と技法
4. 日本語史叙述の技法
5. 研究発表 (1)
6. 研究発表 (2)
7. 研究発表 (3)
8. 研究発表 (4)
9. 研究発表 (5)
10. 研究発表 (6)
11. 研究発表 (7)
12. 研究発表 (8)
13. 研究発表 (9)
14. 研究発表 (10)
15. 研究発表 (11)・まとめ

**6. 成績評価方法：**

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

**7. 教科書および参考書：**

大木一夫『ガイドブック 日本語史調査法』ひつじ書房 2019

参考書：

大木一夫・多門靖容編『日本語史叙述の方法』ひつじ書房 2016

近藤泰弘・田中牧郎・小木曾智信編『コーパスと日本語史研究』ひつじ書房 2015

その他、参考文献は講義内で随時示す。

**8. 授業時間外学習：**

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

**9. その他：なし**

前期の「日本語変異論研究演習Ⅰ」(中世語研究 (上)) から連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LM12202， 科目ナンバリング：LJS-LIN614J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語構造論研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

方言調査法

2. Course Title (授業題目)：

Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がり把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

9. その他：なし

オフィスアワー：随時